

# 父母懇だより

## 都議会文教委員会で小中学校授業料助成 打ち切りが明らかに！

### 小中学校授業料補助は廃止し、授業料減免補助制度に一本化へ

2月10日、都議会文教委員会で署名の審査が行われ、2名の都議が発言しました。

アオヤギ有希子都議(共産)は小・中学校授業料支援制度について制度がどう変わるのか質問、戸谷私学部長から「これまでの小中学校支援制度を、家計急変等授業料軽減に対する助成制度に一本化する」との答弁がありました。アオヤギ都議は「昨年までの支給対象を狭めることになる。都の制度として支援を続けてほしい」と要求しましたが、私学部長は「その考えはない」と否定しました。

家計急変授業料減免補助制度は、各学園で一定の条件を満たす家計急変家庭への授業料減免措置を行った場合、学園に対して減免額の10分の10を助成するというものです。

### 高校の施設費や入学金の軽減補助は考えていない(都答弁)

高校授業料補助については「入学金や施設費などに対する補助を行ってほしい」との質問がありましたが、戸谷私学部長は「奨学給付金、育英資金、入学支度金などの施策を行っている。現行制度の拡充は考えていない」と答弁しました。授業料以外の学費・入学金は2022年度平均で47万円を超えており、今後もこの部分の負担軽減を要求していくことが求められます。

<埼玉県では年収500万円未満であれば施設設備費に20万円までの補助があり、また年収609万円未満組対には入学金に10万円の補助金が支給されます。京都や大阪でも、授業料以外の施設費などの学費や入学金に補助制度があります。>

### 請願項目の一部が趣旨採択(部分採択)―

討論の後で署名の採択が行われ、私たちが提出した「都民の会」の請願署名は「4. 少人数学級など教育条件の改善のために、幼稚園から高校まで経常費補助金を充実させてください。」の項目が趣旨採択(部分採択)されました。3月25日の本会議で正式に決定されます。

### 小中学校の授業料軽減補助の継続・拡充を求めたい

小中学校授業料軽減の制度は昨年700人が申請していますが、家計急変でない家庭は補助金が出なくなります。制度の打ち切りは小中学校授業料補助の明らかな後退で、今後制度の復活・拡充を求めていきたいと思えます。

<この日の文教委員会の模様は東京都議会のHPのインターネット中継で

いつでも見ることができます。>



4月に私立小学校へ入学するこの子の世帯年収は400万円以下ですが補助金が出なくなります。

# 団体交流

## 和光小学校

▼先月に引き続き、コロナ感染した子どもや濃厚接触者と診断された子どもが多いクラスは、学級閉鎖の対策をとっています。和光小としては、できるだけ子供の学びは止めないように、さまざまな感染防止策をとっています。

▼教育懇話会（教懇）をオンラインで開催しました。オミクロン株が猛威をふるっているなか、対面でできない現状をふまえ和光小で初のオンラインでの教懇でした。2学期のうちから準備を進め、どんな状況になっても実施することを目指し工夫してきた実行委員のみなさんの努力もあり、オンラインだからこそ参加できた方もいたりして、当日は各分科会ともに反響も大きかったです。

▼委員会主催オンライン学習会をコロナ禍であっても学び合う場として継続したいと今年度も実施しました。沖縄学習35周年を記念して、6年生が沖縄学習旅行でお話を聞かせていただいている玉木利枝子さんの戦争体験をお聞きするとともに、和光小の沖縄学習の全体像が分かる内容を心がけて企画しました。開催は平日午前中でしたが80名以上の方が参加して下さり、質疑応答と後日実施したアンケートで多くの感想を寄せて頂きました。オンラインだからこそ沖縄の玉木利枝子と繋がることができました。来年度も不透明な状態ですが、学校主催のオンライン活動の広がりを感じました。

## 和光鶴川小学校

▼2月中旬に4年生、6年生の劇の会が行われました。コロナ禍でお休みの子も少なくない中の劇づくりは大変なものでしたが、役を演じる子どもの姿は、普段の姿からは想像できない驚きの発見も多く、舞台上で生き生きと演じる姿を見て保護者の方からも開催できてよかったという声が多く届きました。”どうやったら行事をできるか”にこだわって、進めてきた学校にとって、生き生きとした子どもの姿と、保護者の方の励ましに支えられた1年間でした。2月末には、美術展も開催され、約1000点の作品が展示されました。

▼親和会広報誌”こもれび”が発行され、より学校理解が深まる保護者目線で取材、編集された広報誌を作ることができました。

## 和光中学校

### 【学校生活】

▼コロナ感染対策の下、一般入試全日程終了。新入生保護者会がオンライン開催されました。入試に伴い、2日間のオンライン授業が実施されました。

▼2年生親和会がオンラインで開催されました。

### 【各学年の様子】

#### ▼1年生

3月学年行事に向けて、実行委員会が発足。どこで何をするのかを生徒たちが0から企画を練っています。

総合学習・理科ではグループで課題に取り組んでいます。

#### ▼2年生

ほとんどの生徒の進学先となる和光高校で2年生向け体験講座が開催されました。

国語では音楽科で学んだ和音階を使って作曲したBGMに、古典「春はあけぼの」の朗読を吹き込み作品にする取り組みが行われています。

#### ▼3年生

3月の演劇祭に向けて、脚本決め、大道具作り、体育館練習が始まりました。期末試験を終え、卒業に向けて、国語・数学の課題のまとめに取り組んでいます。

## 和光高校

### 【学校生活】

▼まんぼうの延長、感染状況も高止まりの日々が続いています。生徒達は混乱もなく変わらず過ごしています。

▼3年生はいよいよ卒業式です。巣立っていくことに寂しさも感じますが、それ以上に応援の気持ちを持って送り出したいと思います。

▼2年生は先月の専門学校に続き、大学進学説明会が行われました。各分野に別れ、より詳しい説明を受ける事ができたようです。進路決定した3年生が自らの経験をもとに質問を受けたり具体的なアドバイスをくれました。生徒達は真剣に耳を傾け、必要な情報を取り入れていた様子でした。

3月実施を模索していた研究旅行は春休み中に行う事となり、準備が進められています。

ニュースでは新たな変異株の市中感染が確認されたり落ち着いた日が続いていますが、有意義な春休みを過ごし4月からまた新たなスタートを切って欲しいと思います。

## 【親和会】

▼2月下旬に予定されていた親和会や企画は中止・延期となり、各部会はオンラインでの開催となりました。対面での開催ができず不自由な状況ではありますが、各部、各クラス共に新年度に向けた準備を進めています。

## 大東学園

▼2月5日(土) 午前：拡大役員会。午後：専門部会(担当者会議)の予定を2月19日に延期。新型コロナオミクロン株感染拡大により、生徒が自宅学習期間となったため

▼2月12日(土) 東和会奨学金委員会。10数年ぶりに貸与希望者の最終審査を行う。

▼2月18日(土) 三者協議会事務局会議。1月29日の三者協議会の振り返り。

▼2月19日(土) 午前：拡大役員会。午後：専門部会(担当者会議)

▼2月26日(土) 午前：役員会。午後：3月13日開催の新入生保護者ガイダンス配布物準備

▼3月1日(火) 卒業式。東和会からは副会長が出席し会長あいさつを代読。卒業記念品を贈呈

### 【学校関係】

▼新型コロナオミクロン株感染拡大により2月15日(火)から8時45分登校。50分授業。6限まで。部活は「まん延防止等重点措置」解除まで中止

▼2年生沖縄修学旅行の再延期。3月実施予定

▼2月18日(金) 生徒会主催送別会。

▼3月1日(火) 卒業式

## 明治学院高校

▼PTAは対面実施できず

例年、2月には3学期の学年・クラスPTAが行われています。今年度は感染予防の観点から2年生では資料を配布し、学年会からのメッセージを動画にまとめて配信しました。1年生では丁寧な資料を作成してPTAに代えたクラスやzoomを利用したクラスPTAを実施したクラスなど様々な対応で、日ごろの生徒の様子を保護者と共有しました。

## 不登校を考える私学の会

▼どうしたらいいか迷ったらこちらへ行きついたというような場所です。少しでも話を聞いてもらえて共感してもらえて、元気になりました。(参加者からの感想)

○茶話会

・毎月1回土曜日(次回4/9予定)

・午後2時から4時半(全国教育文化会館内)  
(開催日・会場については下記にお問い合わせを)

連絡先：[メールkonishi\\_m@dokkyo.ed.jp](mailto:メールkonishi_m@dokkyo.ed.jp) (獨協・小西)

## 父母懇運動は未来の私学の先取り！

岩上照司(東京父母役員)

私は、両親との同居生活に区切りが付き、昨年の父母懇総会で役員にまいもどることになりました。私と父母懇との出会いは、東京私教連の役員として鈴木前会長時の運営委員会への参加にはじまり、私学助成運動や「私学のつどい」「関東ブロック父母懇交流集会」などの企画・運営を通じて父母懇運動の大切さを私なりに理解してまいりました。

職場(成城中高校)を定年退職し私教連役員も退任したあと、役員会のご理解をいただき、今度は一役員として、父母懇に関わることになりました。私の役割は、これまでのつながりを生かして、父母懇組織を各学園にひろげていくこと、つまり「組織拡大」です。これからの私学は、それぞれの学校の個性をいかしつつ、父母と教職員が対等の立場から協力しあって学校を作っていくようでなくてはなりません。

しかし、現実には、さまざまな障害があって、そう簡単にはすすみません。経営者や管理職によっては、思うような学校運営の妨げとして父母と教職員の協力関係を拒絶する場合がありますし、教職員のなかにも学校運営に父母が関与することに否定的な人たちもいます。欧米の学校とは大きな違いがありますね。

父母懇は何よりも子どもの豊かな成長を願い、こうした世界から取り残された現状を変えていく推進力をもった組織です。あちこちの学園で父母懇が生まれ、交流も深まり、競争から共同の教育があたりまえの日本になってほしいですね。

ただ、こうした期待を父母懇に託するものの、わたし自身は、この3月をもって役員を降りることになります。今度義母の介護の都合で、静岡に転居するためです。出たり入ったりで、父母懇の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、これからも父母懇運動の発展を一個人会員として応援してまいりたいと思います。

